

## 「平等」と「ちがい」について

真弓小学校 五年 勝見 帆愛

いつも当たり前のように聞いていたけど改めて不思議に感じた言葉があります。それは、「平等」という言葉です。友達に、「どういう意味でしょう?」と聞いてみると、「大人も子どもも関係なく同じってことじゃないかな?」と答えてくれました。国語辞典で調べてみると、「差別がなくみんな同じであること」と書いてありました。私は「みんな」ってどういうことだろうと、思いました。王様も、お母さんも、赤ちゃんも、犯罪者も、病気の人も、私もみんな同じなのでしょうか? 私には二つちがいの姉がいます。ケンカになると姉に、「年上の言うことは聞きなさい!」と言われます。母も、「何でもお姉ちゃんと同じようにはいけませんよ。」と言います。ケンカをした時、私はいつも「私が一番上だったら良かったのに!」と思います。また、世の中には、びんぼうな人もいればお金持ちの人もいます。仕事がなくて困っていたり、病気で苦しんでいる人もいます。だから私は、世の中は「平等」ではないんじゃないかなと思います。ニュースでは、お金に困った人が、お金持ちの人のころしてしまったり、盗んだりしたことが報道されます。国どうして戦争をしているところがあるというニュースも見ました。もしこの世の中が、「みんな同じ」だったらこんな犯罪や争いはおこらないのでしょうか。私は、「兄弟の中で一番上になりたい」と思ったことはあるけれど、顔や性格など全部合わせると、やっぱり私自身でよかったな、と思います。私と姉は家族だけど、全く同じではありません。そして、それは「ちがい」であるということなんだと気がつきました。私たちは人のことをうらやましく思ってしまうこともあります。自分が持っているものよりも、もっとたくさんのものをほしいと思ってしまうこともあります。それが、悪い心や考えにつながって、犯罪がおきるのではないかと思いません。みんな持っているものはちがうけれど、それをみとめ合えたり、分け合えたら、犯罪はへっていくのだと思います。私には、ある大きな夢があります。それは「お医者さんになって、働いたお金で困っている人を助ける」という夢です。どうしてそういう夢かというと、小さいとき

にみたコマーションシャルがきつかけでした。静かな音楽がながれていて、はじめにベットで苦しそうにしている女の子がうつって、次に小さな家で、食べる物がなくひざをかかえて座っている男の子がうつっていました。ナレーターの子の女の人が、「ぼ金活動をしませんか。世の中には困っている人がたくさんいます。」と言っていました。私は、もう二、四年たつ今でもはつきりとそのコマーションシャルを覚えています。私がお医者さんになりたいたと、また、ぼ金活動をしたと思ったのも、病気の女の子を助けたたい、お腹をすかせている男の子に食べものをあげたいと思ったからです。この世の中は、住む国も考え方もちがうけれど、それをみとめ合って、自分がたくさん持っていたら、それを少し分けてあげることができたら、もつと明るい社会ができるのではないかと思えます。たとえ全部「平等」ではなくても、お互いに「ちがいが」があることをわかって、優しい気持ちを持つことができれば差別も、犯罪も減っていくと思えます。私は、大きな夢をかなえ、社会が明るくなることに役に立てるよう一生けん命がんばりたいです。

## 世界を変える魔法

あすか野小学校 五年 萩原 大晴

ぼくはみんなが笑っているところが好きです。だからぼくはいつもみんなが笑えるようなことをしたり、困っている人がいたら助けたいと思っ  
ています。では、なぜいつもこうしているのかを思い出してみました。  
た。理由は二つあります。一つ目は、小さい時の写真を見て「こんな笑  
顔が永遠に続けばいいな。」と思ったからです。なぜ、小さい時あんなむ  
じやきに笑っていられたかという周りの人に遊んでもらったり、守っ  
てもらっていたから、ぼくも周りの人も笑っていたんだなと思いまし  
た。二つ目は、三年生の時に図書室で借りて読んだ「はだしのゲン、」で  
す。原ばくでかみの毛がぬけてしまった女の子が小学校で男の子にカツ  
ラを取られからかわれていて落ちこんでいた時に、主人公のゲンが、「み  
んな笑えよ。元氣だせよ。」と自分もかみがぬけてからかわれているのに  
ほかの子をばげましていることにめっちゃかっこいいな。」と思っ  
たし、  
自分もうれしくなっただからです。この二つのことを意識して周りのみん  
なを笑顔にするためにはどうしたらいいか考えました。一つ目は、相手  
とどんなに年れいがはなれていても同じ目線で話をしてあげること  
です。そうすれば相手もぼくも両方ともうれしくなります。けれど相手が  
自分の目線に合わせてぼくがぼく自身の目線で立ったままだとぼく自身  
はうれしいけど、相手はうれしくなりません。だからおたがいに目線を  
近づけていくとおたがいにうれしく、笑顔で楽しくなります。二つ目  
は、周りにいやなことをされたり、悲しい思いをしている人がいた時、  
「自分があんなことされたらどう思うだろう。」と相手の立場にたって助  
けたりはげましたり守ってあげたりすれば相手もいやだったことがスツ  
キリするし、自分もスッキリします。こうやってみんなが明るく笑顔で  
いると世界が争いもなく、平等で平和な星になっていくと思います。  
最近、クラスで上級生にからかわれている子がいてぼくは、「かわいそ  
う・きずついているだろうな。」と思って上級生に「すみません、内のク  
ラスの子達が少しうるさいと言っているのどっか行ってもらっても良  
いですか。」と言って出ていってもらいました。その後いじめられてい

た子に「気にすんなよ。」と言うと少し元気になって「うん。」と笑ってくれました。その時ぼくは、「やっぱり笑顔って最高だな。」と思いましたが。笑顔というのはどんなに重いことでも心を軽くしてくれる魔法のよ  
うな物だなと思います。これからもみんなが明るく笑顔でいられる社会になるようにまずは自分からがんばっていききたいと思います。

## ぼくらの未来は明るい

俵口小学校 六年 佐佐木 蒼空

「泥棒さんへ 他のお金には手を出さないでね今日一日分少ないですがこれで許して。その代わりに手を合わせて、そして余裕ができたら倍にして返して」とお坊さんが さい銭箱に入れていると言うニュースを見ました。他にもこんな神主さんもいるそうです。封筒に千円札と手紙を入れて「あなたにも何かきっかけを作ってあげたくて、この手紙を書いていきます。あなたもきつと変われます」ぼくはこのニュースを見て、お坊さんも神主さんも、優しいなあと思いました。「喝ー」とは言っていました。泥棒をつかまえて警察につき出すだけじゃなくて、違う方法で泥棒をやめさせることもできるのかな？と思いました。もちろん泥棒は悪いことです。してはいけないことです。でも今現在、さい銭泥棒は増えているそうです。それにはコロナが影響していると考えています。コロナが流行る前と後では大きく社会が変わってしまったと思います。飲食店で働く人の仕事がなくなったり、ステイホームでストレスがたまってしまったりして、犯罪に手を染めてしまう人が増えたのではないのでしょうか。本当に犯罪を犯したいわけではないけれども、お金がない、ストレスに堪えられないといった理由で犯罪が増えているのかもしれないとぼくは推察します。だから、ただ警察で取りしまるだけでは犯罪は減らないのではないのでしょうか。お坊さんや神主さんの行動は、別の犯罪を減らすための方法なのかもしれないと感じました。日本の法律では、無期懲役でも社会に出て来れるとお父さんから聞きました。アメリカなどでは、一度犯罪を犯した人の住んでいる場所や犯罪の内容などが普通の人にもわかるそうですが、日本はわかりません。何年かして同じ犯罪を犯してしまう人もいるそうです。他にも、日本には少年法と言うものがあるって子どもの間に犯罪を犯しても、氏名は公表されません。大人とは違う扱いになるそうです。ぼくは何が本当に正しいのかは、今はわかりません。でも、安全に暮らしていける社会を作っていきたいと思っています。だから、たくさん勉強して本当に正しいことが何なのかを考えていきたいです。ぼくの将来の夢はホテル王になることです。たく

さんの人が笑顔で楽しくすごすことができたなら、きっとみんなが幸せになれると思います。ぼくのまわりでも、ちよつといじわるなことをしたり悪口を言ったりする子がいます。でもきつとその子にも理由があつて、イライラしていたり他にいやなことがあつたりして、悪い事をしてしまうのだと思います。小さなことから嫌なことを減らして、幸せな生活を送れるようになれば、ぼくらの未来は明るい。